



目 次

名古屋大学附属図書館研究開発室の取り組み (逸村 裕).....	1
医学部分館リニューアルオープン (堀 茂).....	4
新保健学情報資料室の開設について (八田和子).....	5
充実をし続ける 電子ジャーナル・サービス	7
平成13年度特別図書一覧	8

名古屋大学附属図書館研究開発室の取り組み

逸 村 裕

1. はじめに

平成13年度、名古屋大学附属図書館研究開発室が発足した。諸外国および日本のいくつかの大規模図書館では図書館と情報環境の変化に適切に対応し、そのサービスを高度化するためR&D(研究開発)機能を図書館に備えている。附属図書館研究開発室もその一つである。

附属図書館研究開発室は中央図書館三階東南側にある。この4月からは室長、専任教官2名そして兼任教官7名の計10名体制となり、研究開発に取り組んでいる。本稿ではその概要を紹介する。

2. 今日の大学図書館

図書館のイメージといえば、静かな閲覧室での読書勉強、本を借り出し、調べ物をする、というのが一般的なものであった。映画、TVドラマに描かれる図書館の多くの姿でもあろう。

今日、大学図書館はネットワーク情報源と呼ばれるインターネット上のデジタル情報源の急速な普及とそれに伴う情報利用行動の変化により、変革期を迎えている。これに社会的な要請、

大学改革が加わり「教育研究を支援する」大学図書館のあり方そのものが問われている。

従来、図書館は印刷された図書・雑誌・新聞といった紙媒体情報源の選択収集を図り、資産管理と検索用に目録を整備し、図書資料を閲覧貸出に供してきた。さらに資料情報や目録の利用に際し、利用者を人的に支援するレファレンスサービスを行ってきた。

こういった「紙をベースとした図書館」に1970年代以降、試行錯誤を繰り返しながらコンピュータが導入されていった。発注受入目録業務、貸出業務、そしてレファレンスサービスへとコンピュータが徐々に導入されていった。1985年に発足した「学術情報センター(現国立情報学研究所)」のネットワーク機能により大学図書館は「機械化図書館」へと変貌を遂げた。1990年にはほぼ全ての大学図書館がコンピュータ中心に業務が進められるようになった。それに伴い、学術情報源の分担収集体制、相互協力体制が進んでいった。

そして21世紀を迎えた現在、情報源そのものが急速に電子化され、情報環境において激動の

時代を迎えている。インターネットの普及、電子情報源の急増に伴い、「ハイブリッド図書館：Hybrid library」へと進展しつつある。ハイブリッドとは雑種、混成といった意味である。すなわちハイブリッド図書館とは紙、電子情報源といったメディアの別にこだわらず情報源を最大限に活用できる図書館のことである。

ここでは「紙資料」の重要性が減じたわけではない。快適な読書環境が必要であることに変わりはない。紙中心であった情報源に新たに電子情報源が加わり、それを活用する情報基盤と機器の多様化が進んでいることを意味する。そしてこのことは図書館のあり方と情報利用行動に大きな影響を及ぼしつつある。

『館燈』前号に記されているように、名古屋大学附属図書館では6000種を越える電子ジャーナルの利用が可能となっている。また研究者の引用行動から学術情報を検索あるいは俯瞰することのできる「Web of Science」といったネットワーク情報技術を活用した二次情報源も導入された。これら情報技術を活用したサービスは今後も続々と新たな発展を続けることは間違いない。

図書館は従来、その名のとおり「館」に依拠してサービスを行ってきた。図書館員も同様であった。しかし今日の図書館は情報技術を活用し、館の壁を越えて活動を展開しつつある。インターネットの普及により、この活動は国境の壁も越えて動きつつある。今では多くの外国図書館のデジタル資料も手元のPCで検索閲覧することができる。

こういった情報環境の変化に即して、図書館活動の国際標準化が進んでいる。書誌情報においては「図書に対する目録」に変わり、「電子情報源に対するメタデータ」がその一例である。1995年米国オハイオ州ダブリンで開催された会議において、ネットワーク情報源のメタデータ記述のための基本形が提案され、通称「ダブリンコア」と呼ばれる15項目が誕生した。今日で

はこの展開形が国際標準となっている。

3. さまざまな資料群に対して

一方、附属図書館では「高木家文書」等、多くの貴重な古文書を所蔵している。「高木家文書」は江戸時代を通じて木曾三川流域の治水で知られる高木家が残したものを名古屋大学が所有しているものである。ここには治水だけでなく歴史、経済、民俗風習に及び興味深い資料群である。「高木家文書」については中央館四階の常設展示室に展示解説がある。是非ご覧きたい。

上記以外にも神宮皇学館文庫、青木文庫など多くの和漢古典籍が所蔵されている。また伊藤圭介と尾張本草学・医学に関する貴重な資料が存在する。

これら和漢古典籍に対し、詳細な調査を行い、情報技術を活用し、多くの方に提供できるような目録・メタデータ作成とデータベース化、及び図書館資料活用の高度化を、研究開発室では目的の一つとしている。

4. 図書館情報リテラシー教育

高度化した図書館機能を利用者がフルに活用するためには一定の図書館情報リテラシー能力が要求される。この教育機能においても附属図書館研究開発室は共通教育、教養教育との連携をもって効果的な図書館情報リテラシー教育の実施に力を注ぐことにしている。

教育研究にとって、的確な情報利用行動そして読書は不可欠の活動である。情報技術の進展はこれらにも影響を及ぼしつつある。インターネット、サーチエンジンそして携帯電話の普及による情報行動の変化はその最たるものである。大学での学習教育研究において情報行動はどう変化しつつあるか、その変化の中で修得すべき図書館情報リテラシー能力は何か、いかに修得するか、身につけた能力をどう維持発展させていくか、が重要なポイントとなっている。

5. 情報社会と名古屋大学附属図書館研究開発室

カリフォルニア大学バークレー校の元図書館長ピーター・ライマン（Peter Lyman）によると、一年間に地球上で新規に生産される情報量は1.5エクサバイト＝1018bytesに上るといふ。これは地球人一人当たり250メガバイトにあたる。ライマンは「そのうち紙は0.03%しか占めない」とも述べている。

日本国内で一年間に新たに出版される図書は6万種を超える。この数字にして0.03%の一部に過ぎない。日々生産される膨大な情報の中でいかにして適切に必要な情報を選択収集し活用するか、は現代人の課題である。

ネットワーク情報源を探索するのに不可欠な「サーチエンジン」は複数を組み合わせて使用しても60%程度しか探し出すことができない。しかもその結果は玉石混交である。学術情報に

おいて「玉」を見つけ出すことは容易ではない。

このような情報社会において図書館に要求される機能は多種多様化している。それにどのように対応するか。人の情報行動はまた個々さまざまである。情報を取り巻く問題にはこういった多種多様な要因がからみあっている。

大学環境は変化しつつある。情報化、国際化はもちろんのこと国立大学の法人化、地域開放、社会貢献、産学協同、知的財産権の重視、教育研究情報源のための全国資源共有保存戦略、学術情報源費用の高騰。どれも大学図書館の将来にも関わる懸案である。附属図書館研究開発室では情報連携基盤センターと協力体制を取りつつ、新しい情報技術を活用し、これらの課題に取り組む所存である。

（いつむら・ひろし

研究開発室専任室員助教授）



研究開発室の看板を掲げる左から小池事務局長・松尾総長・伊藤附属図書館長・奥野副総長

研究開発室メンバー

室長	教授	伊藤義人（附属図書館長）	
専任室員	助教授	逸村 裕	
	助手	秋山晶則	
兼任室員	教授	杉山寛行	教授 吉川正俊
	助教授	長尾伸一	助教授 松原茂樹
	教授	山内一信	助手 津田知子
	教授	溝口常俊	助手 平野 靖

医学部分館リニューアルオープン

堀 茂

平成13年7月10日(火)から9月14日(金)にかけて、耐震・内装・空調を主とした改修工事が行なわれることになり、7月1日(日)から9月24日(月)を休館とした。耐震・空調工事は1階の生協も含めた建物全体に及ぶ一方、内装工事は分館の主要部分に限定されていたが、当初予定に入っていなかった事務室内の工事も追加され、結果としてかなりの部分が改修の対象となった。



耐震のため増設された壁

休館が3ヶ月近くにも及ぶため、別の場所を確保(これがなかなかの難物)してサービスを継続する必要があった。幸い関係各方面からの協力もあって、資料等の退避場所に始まり、完全とはいかないまでも最終的には臨時の事務室、サービス窓口及びパソコン・コーナー、新着雑誌室、製本雑誌室、自習室を準備することができた。スペース上の制約からサービスは学内者に限定したが、逆にサービス時間は夏季休業期間中においても基本的に夜8時までとした。実施したサービスの概要

は次のとおりである。

(休館前)

1. 長期貸出(個人)
2. 製本雑誌の長期貸出(講座等)

(休館中)

3. 窓口
4. 文献複写(依頼)
5. 利用者用パソコンの利用(台数限定)
6. 新着雑誌の閲覧
7. 製本雑誌の閲覧(利用頻度が高く新しいものに限定)
8. 複写機の設置
9. 自習室の設置

リニューアルオープン後もしばらくはカオス状態が続き、ほぼ完全に近い形で開館できるようになったのはやっと10月に入ってからであった。館内は明るくなり、あたりの空気もなんとなく新鮮に感じられるなど、図書館の環境は大幅にアップした。だが失ったものもある。例えば吹き抜け部分の景観がそれであろう。かつてこの眺めを楽しんだ人たちは、視界をさえぎるコンクリートの壁に直面してなんと思うであろう。それに、近い将来の増改築の夢。

最後にこの間の愚痴を並べたてて(当人でないとわからない?) 終わりとする。猛暑と壊れかけたエアコン、機械のために設定された室内温度、資料の仮置き場所が医学系部局特有の場所、数で負け3階に押しやられた男性用トイレ、哀れな未改修部分、等々。

最後の最後として: 感謝! 感謝!

(ほり・しげる・医学部分館情報管理掛長)

新保健学情報資料室の開設について

八 田 和 子

昨年11月19日、大幸地区にある保健学科において、附属図書館医学部分館保健学情報資料室（以下図書室という）の移転に伴う記念式が執り行われた。図書室は、平成12年度の補正予算により改修された大幸医療センターの建物（改修後、保健学科南館となった）1階東側にオープンした。広さは820m²で、旧図書室の約2.5倍、開架部分は約3倍となった。

図書室を改修工事に含めるという保健学科学科会議（教授会）の決定（2000年12月6日）を受けて保健学科の図書専門委員会は改修の基本方針として、新しい図書室は保健学科のみならず、大幸医療センターを含む大幸地区全体の図書室としての役割をもつこと、十分な収容能力（約6万冊、うち半分は集密書庫）、閲覧スペースを確保することを決め、各機能別の必要面積の概要を12月中旬に提案した。改修工事であるため、設計の前提として考慮しなければならなかったのは、建物の南側部分が塞がれていること、工事は耐震工事を兼ねていること、幾つか力壁があることなどであった。幸い1階に1層で図書室面積が確保できた。



設計の具体化の段階で以下の考え方を提示した。1)真ん中にある約150m²の中庭を活かしてこれを図書室のスペースの中心とすること、2)中庭により採光と通風をはかること、3)将来を考え書庫と閲覧スペースを隔絶せず、柔

軟で開かれた区間とすること、4)カウンター及び事務室から利用者の動きが見渡すことができること、そのためには力壁に要所で穴を開けることなどである。

短大時代からの伝統で、学生を中心に活用されてきた図書室であるが、新しい図書室が開設して、職員にとって何より嬉しかったのは、学生の喜びの声であった。毎日図書室に来たいという学生が少なからずいて、引越の疲れも忘れて励まされたものだ。



南館は、旧図書室のあった本館の南に位置し、通りから一步奥まったこともあり騒音が少なく、学生も従来より落ち着いて学習しているように見受けられる。中庭を中心に、北側および東側に新着雑誌・情報検索・参考図書・複写コーナーなど人の動きのある空間、西側には閲覧席が設けられ、静かな空間を作っている。図書館において電子化された情報が重要性を増しているが、環境のよい空間も学生にとって大切である。また、開架書架が増設されたことにより、雑誌が一本化して開架書架に並び、利用し易くなった。現在、図書室はレポートを準備する学生、文献検索をする学生、のんびりと新聞を読む学生などで、連日賑わっている。

一方、予算の制約から施設面だけでも多くの課題が残っている。集密書庫は文字通りレールが敷かれてはいるが書棚がない状態である。中

庭や視聴覚・PCコーナーの未整備、情報機器の更新、机や椅子の不足などである。

この3月第1回の卒業生を送りだしたばかりの保健学科は、4月に大学院修士課程が設置され大学院生が入学したところである。こうした保健学科の変化に対応して、新しい器にふさわ

しい図書室の充実が期待される。

最後に保健学科の教職員、大学本部施設部、医系施設整備推進室の方々に感謝して筆をおきます。

(はった・かずこ

前医学部分館保健学情報掛長)

工学部図書室からのお知らせ

4月1日より工学部図書室は図書系職員を集中し、図書業務(図書の受入・支払、雑誌の契約・精算、ILL業務等)の集中化を開始しました。

学科図書室の一部は当面臨時職員等で運用しますが、開館・運用条件はそれぞれ異なります。利用にあたっては工学部図書室のホームページ(<http://lib.engg.nagoya-u.ac.jp/>)をご覧ください。今後、図書・雑誌に関するお問い合わせはすべて工学部図書室(内線:3411、5033)へお寄せいただきますようお願いいたします。

文学部の一時的移転に伴う図書資料の利用停止について(お知らせ)

このたび文学部は、大規模改修工事とそれに伴い核融合研究所跡地へ一時移転いたします。一時移転にあたり、平成14年5月1日より同10月末日(予定)までの期間、多数の図書資料が梱包状態に置かれるため、文学部所蔵の図書・雑誌・紀要類の利用を原則的に停止いたします。この期間中は、ILLだけではなく、文学部にじかに来られての閲覧なども対応いたしかねます。

利用再開は、11月頃をめざしておりますが、改修工事や引越し作業の進捗状況によって遅れることがあります。

❖ [附属図書館自己点検・評価報告書および外部評価報告書を刊行] ❖



附属図書館で平成13年12月7日に外部から図書館運営についての有識者をお招きし、初めて外部評価を実施しました。この度その結果をまとめて附属図書館外部評価報告書を刊行しました。また、附属図書館では平成12年度に平成4年度及び平成7年度に引き続き第3回目の附属図書館自己点検・評価を実施し、平成13年7月に報告書を取りまとめています。この二つの報告書に基づいた図書館サービスや業務の一層の改善が図られることが期待されます。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 充実をし続ける電子ジャーナル・サービス ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

名古屋大学では2002年1月から主要出版社の電子ジャーナルの提供を続々と開始しています。その状況については、館燈の前号と前々号に詳しい紹介が掲載されていますが、昨年計画したものがこの5月でほぼ出揃い、学内での電子ジャーナル利用環境は、国内でも先進的とも呼べる水準に達し、学術雑誌の利用を急激に進化させています。

これらの急激な進展は、国立大学図書館協議会、文部科学省、また学内においては各部局、図書館長、商議委員会、部局図書委員会、そして全学の図書館職員など様々な人々が、今まで経験しなかった事業の立ち上げを多方面から推進し、外国出版社との粘り強い交渉をし、コンソーシアムという仕組みを作り上げ、新しい財源を発掘し、利用情報の提供法を進化させ、大量の宣伝をし、利用講習を行うといったエネルギーな営為が集中した成果であるとも言えます。

現在、本学で提供される電子ジャーナル・サービスは、Elsevier, Academic Press, Springer, Blackwell, Wiley, Cambridge UPなど大手をほぼ網羅し、EBSCOhost, FirstSearch ECO, HighWire, CatchWord, Ingenta などのアグリゲーター（電子ジャーナル提供の代行業者）系の代表的なものは利用可能です。学会系は IEEE, American Physical Society, American Chemical Society など一部導入はしていますが、今後の導入推進が待たれます。

バックナンバーを専門とする電子ジャーナルでは、JSTOR があります。

4月から以下のものが追加されました。

- 1 . PCI Full Text (200 Titles)
Periodicals Contents Index に準拠する1990年以前の人文・社会科学系バックナンバー
- 2 . ProQuest ABI/INFORM Archive (37 Titles)
経済、経営関係の1986年以前のバックナンバー
- 3 . BioOne (45 Titles)
Life Science 系の雑誌
- 4 . Nature および Scienceのサイトライセンス

- 5 . ProQuest Newspapers (New York Times, Times of London ほか3紙)

今後は、Kluwer, Oxford などや IEEE をはじめ理工系学会系雑誌の導入などが挙げられており、早期実現が望まれます。

主な導入電子ジャーナル・サービス (2002.5 現在)

サービス名	導入 タイトル数	メモ
ScienceDirect (Elsevier Group)	1,214	出版社系
LINK (Springer)	437	"
InterScience (Wiley Group)	398	"
Synergy (Blackwell)	332	"
IDEAL (Academic Press)	178	" 一部
Cambridge Univ Pr	141	"
Oxford Univ Pr	156	"
Kluwer	129	" 一部
U Chicago Pr	51	"
Karger	22	" 一部
EBSCOhost ASE	1,350	Aggregator系
Ingenta	412	" 一部
HighWire Pr	300	" 一部
CatchWord	238	" 一部
FirstSearch ECO	143	" 一部
Project Muse	48	" 一部
J-Stage	67	国内雑誌和洋
JSTOR	250	Back Numbers系
PCI Full Text	199	"
ABI/INFORM Archive	37	" 一部
その他	964	その他
合計(延べタイトル)	7,066	

純タイトル約6,000

* 名古屋大学電子ジャーナルアクセスサービス *
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/ej/>

平成13年度特別図書（人文・社会科学系）一覧

Women's Language and Experience, 1500 - 1940: Women's Diaries and Related Sources. Part 3

（女性の言語と経験）マイクロフィルム

英国の各機関に所蔵する女性史関係資料の集成。Part 1・2 は昨年度の特別図書で購入済み。Part 3 はサフォークの文書保管所およびケンブリッジ大学図書館資料から。

国立国会図書館所蔵明治期刊行図書マイクロ版集成 「教育」部門「教授法・各課教育」分野

第166 - 192リール マイクロフィルム

国立国会図書館が所蔵する明治期刊行の教育図書群のうち「教授法・各科教育」分野の図書のマイクロ版。平成7年度からの継続購入。

Protokolle des Rechtsausschusses des Deutschen Bundestages. 1.-11. Wahlperiode (1949-1991)

（ドイツ連邦議会・連邦参議院法務委員会議事録） マイクロフィッシュ

ドイツ連邦議会・連邦参議院の法務委員会の議事録及び公聴会の議事録を収録したもの。

中外物価新報 1 - 18巻 復刻版

『日本経済新聞』の前身で明治9年に発刊され、経済ジャーナリズムの基礎を築いた新聞の復刻版。明治期日本の経済状況が克明に判明する基礎的かつ貴重な資料。

カナダ移民史資料 ・ 復刻版

カナダ移民に関する基本・重要文献の復刻版。全11巻

Documents on education development : Africa

（発展途上国教育総合調査研究公式資料集成：アフリカ編） 2nd Catalogue.

発展途上国の教育に関する調査研究の公式資料集の内、Africa 部分。過去3年の継続。

現代ラテンアメリカ文学叢書 70巻 オリジナル

世界的に注目を浴びているラテンアメリカ文学の作家シリーズとして、平成9年度購入の Hispanoamericana Contemporanea（第1期）に続くもの。

泰西本草名疏 伊藤圭介著

文政11 - 12年 本巻2冊補遺巻1冊 初版

フランスの日本医学史関係蒐集家ブロンドレ氏の旧蔵書。

わが国最初のリンネの分類体系による、本草学史上必須の文献。

次良丸章 (岐阜大学附属図書館情報管理課目録情報係長) 4.1 (国際開発研究科図書室から)
小林祐二 (文化庁国語課庶務係併任) 4.1
(情報システム課システム管理掛から)
はじめまして - 新しく採用になった人 -
山川幸恵 (医学部分館情報管理掛) 4.1
近藤悦子 (経済学部・経済学研究科図書掛) 4.1
眞野博和 (農学部・生命農学研究科図書掛) 4.1
三好千里 (情報システム課図書情報掛) 4.1
はじめまして - 他機関から転任になった人 -
臼井克巳 (情報サービス課長) 2.1
(鳴門教育大学図書課長から)
内藤英雄 (事務部長) 4.1
(茨城大学附属図書館事務部長から)
郡司 久 (情報システム課長) 4.1
(静岡大学附属図書館情報管理課長から)
川添真澄 (情報サービス課閲覧掛長) 4.1 (三重大学附属図書館情報サービス課資料運用係長から)
石田康博 (医学部分館情報サービス掛長) 4.1
(岐阜大学附属図書館情報管理課資料受入係長から)
これからもよろしく - 配置換(昇任)になった人 -
伊藤哲谷 (情報管理課課長補佐) 4.1
(情報文化学部・人間情報学研究科図書掛長から)
平井芳美 (医学部分館図書館専門員) 4.1
(情報サービス課相互利用掛長から)
大澤 剛 (情報管理課庶務掛長) 4.1
(医学部・医学研究科総務課職員掛主任から)
入山美智子 (情報サービス課閲覧掛長) 4.1
(医学部分館情報サービス掛長から)
八田和子 (情報サービス課相互利用掛長) 4.1
(医学部分館保健学情報掛長から)
豊岡曜子 (医学部分館保健学情報掛長) 4.1
(農学部・生命農学研究科図書掛から)
久宗順子 (文学部・文学研究科図書掛長) 4.1
(情報サービス課参考調査掛長から)
森田友久 (情報文化学部・人間情報学研究科図書掛長) 4.1 (文学部・文学研究科図書掛長から)

岡本正貴 (情報連携基盤センター学術電子情報掛長) 4.1 (情報システム課システム管理掛長から)
米津友子 (情報システム課雑誌掛) 4.1
(情報システム課図書情報掛から)
今枝文子 (教育学部・教育発達科学研究科) 4.1
(経済学部・経済学研究科図書掛から)
小倉文子 (教育学部・教育発達科学研究科附属学校事務掛) 4.1 (医学部分館情報管理掛から)
島岡豊美 (法学部・法学研究科図書掛) 4.1
(情報文化学部・人間情報学研究科図書掛から)
谷敷和子 (情報文化学部・人間情報学研究科図書掛) 4.1 (教育学部・教育発達科学研究科図書掛から)
山田敦子 (農学部・生命農学研究科図書掛) 4.1
(法学部・法学研究科図書掛から)
棚橋是之 (国際開発研究科事務掛) 4.1
(情報システム課雑誌掛から)
小林祐二 (情報連携基盤センター学術電子情報掛) 4.1 (情報システム課システム管理掛から)
規程改正など
・名古屋大学附属図書館長候補者推薦内規 (14.4.1 改正)
・名古屋大学附属図書館医学部分館長選考内規 (14.4.1 改正)
部局動向
・国際開発研究科情報資料室夜間開館開始 (4/1 ~ ; 17 : 00 ~ 19 : 00 ; 2, 3, 8月除く)
・同研究科推薦図書制度開始 (4/1 ~)
・経済学部夜間開館開始 (4/1 ~ ; 17:00 ~ 20:00, 月・火・木 ; 3, 8月は除く)
・工学部中央図書室で図書業務の集中化開始 (4/1 ~)

編集委員会

臼井克巳 (委員長) 鈴木 誠 (中) 飛田美穂 (中)
山下真弓 (中) 久納優希 (文) 森 由香 (法)
渡辺暢子 (医保健) 眞野博和 (農)